

BOOK REVIEW

書評

「なるほどなっとく！解剖生理学」

～初めて学ぶ学生にもヒトのからだのすばらしさが実感できるテキスト～

多久和典子/多久和 陽 著 南山堂

田中美智子（日本生理学会教育委員会，宮崎県立看護大学看護人間学 I）

この書籍「なるほどなっとく！解剖生理学」は2017年4月に南山堂より学生達が学んでいくのに適したテキスト、参考書として発刊されています。人体の構造と機能は、医療を目指す学生にとって、自身の将来の学習として重要だと頭では分かっているけれども、専門用語の壁や複雑な仕組みに圧倒され、どちらかという苦手意識を与えてしまう科目になっています。実際、学習し始めの早い段階で、この科目は学生の前に立ちの壁のような存在で、学生からは「何から手を付けてよいかかわからない」、「覚えることがたくさんあって、難しい」、「テキストが難しい」などなど、このようなマイナスの感想が届きます。私も学生に教える際に、「どうして、この素晴らしいしくみに興味をわかないのだろうか」とか、「ここに記載されていることを頭の中でイメージしてみて…」と話してみますが、なかなか悩みは解消されず、この悩みの種子は残ったままとなっている部分がありました。その状態で、このテキストに出会いました。このテキストを書かれた多久和典子先生は石川県立看護大学で看護師教育にも従事されているため、医療関係職を目指す学生のあり様をもふまえた上での内容構成になっています。表題に「なるほどなっとく！」という言葉が使われているように、身体のしくみが実によくできているということを知って医療について学ぶ学生が学習していく上で、迷子にならないよう、各章ごとに、整理、厳選された学びの学習目標が示されています。また、図を通して、内容がイメージしやすいように工夫されていますし、本文中にも重要な用語は一目でわかるように色分けして表示されています。これらの工夫だけでなく、難しいと身構えてしま



う学生に、興味を持たせるために、読み手がほしいと思うであろう所要所にコラムや解説の記載があります。たとえば、「心臓のポンプとしての特性」の説明の部分では心不全に関する解説があり、正常から病態に結びつけることができる内容となっています。最近のトピックスや臨床に関連する内容がコラムや解説に組み入れられているので、今、学んでいる部分が将来に着実に繋がっていると感じることができ、学習意欲を高めてくれます。内容を読んでいくと、著者が「序」の部分に記載しているように、「なるほど、すごいなあ」と身体のすばらしさを感じながら、サラサラと読めるテキストとなっています。そのため、医療について学び始めた学生が自ら読み進め、興味を持って、身体の構造と機能のすばらしさについて理解を促すテキスト・参考書であると思います。